

第 250 回地震予知連絡会 重点検討課題 趣旨説明

「熊本地震から 10 年（仮）」について

コンビーナ 九州大学 松本 聡

1. 背 景

平成 28 年（2016 年）4 月に起こった熊本地震は 4 月 14 日の気象庁マグニチュード (M)6.5（最大前震と呼ぶ）の地震から始まり、4 月 16 日の M7.3 の本震を最大として、規模の大きな地震が連続して起こり、大きな被害をもたらした。地震予知連絡会では第 211 回で重点検討課題として取り上げ、調査・観測結果が議論された。その後も活発な地震活動や余効変動が続いており、今後の活動にも注意すべき地震でもある。この地域で地震や地殻変動、地殻構造、活断層についての調査が進み、これらの成果が出そろいつつある現在、発災後 10 年を契機として、得られた知見を共有するとともに課題を整理して認識することが、今後の調査・研究にとって重要と考えられる。

2. 課 題

平成 28 年（2016 年）熊本地震は、活断層である日奈久断層・布田川断層において発生した地震である。この地域はかねてから中小地震の活動が活発であり、これらと熊本地震の関係が議論されてきた。また、本震の地震断層モデルは多くの研究から得られているが、これらと複雑な断層運動を引き起こした背景、2 つの活断層が連動した原因など不明な点は多く残されている。さらに、現在の活発な余震活動や今も続く余効変動が今後の活動にどのように影響するかななどの問題点がある。これらについて議論を行い、理解を深めることが今後の地震発生予測にとって重要であると考えられる。

3. 報 告（予定）

- ①テクトニクスから見た熊本地震の背景
- ②地震活動から見た熊本地震の発生と今後の活動可能性
- ③熊本地震とその後の地殻変動の時空間的特徴とその原因
- ④地殻構造からみた熊本や内陸大地震発生の背景
- ⑤活断層調査から見える熊本地震と今後の活動

4. 論 点（予定）

- ① 熊本地震を引き起こした背景の理解と妥当性
- ② 熊本地震断層と活断層、火山の存在による地震時すべりとの関係
- ③ 背景地震活動、地殻変動、活断層の情報が大地震発生に示唆を与えていたか
- ④ どのようなモニタリングが、今後の活動予測へつなげられるか